

山口県総合教育会議 議事録

- 1 日 時 平成28年2月18日(木) 10:30～11:30
- 2 場 所 山口県庁4階 共用第1会議室
- 3 開 会 (事務局)
- 4 知事挨拶

本日は第3回となった山口県総合教育会議ということで、教育委員の皆様方には、大変お忙しい所お集まりをいただき感謝申し上げます。これまでの会議では、委員の皆様からいただいた色々な御意見を踏まえ、「山口県の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱」を策定するとともに、平成28年度における重点取組方針についても委員の皆様方と認識の共有を図ったところ。こうした中、このたび平成28年度の当初予算案をとりまとめたわけであるが、財源不足が大きく、厳しい予算編成となったが、「活力みなぎる山口県の実現」に向け、国の補正予算も活用し、人口減少の克服に向けて、予算の重点配分をし、色々な課題に対応した編成ができたと思っている。特に教育分野については、大綱で掲げた基本方針や、重点取組方針を踏まえ、将来にわたって本県を支える人材を育てていくという観点で、所要の予算措置に努めたところである。

後ほど、28年度の重点的な取組について、事務局から説明させていただくが、私としては、この4月に設置率が100%となるコミュニティ・スクールを核とした「やまぐち型地域連携教育」の取組、これを一層推進していきたいと思っているし、また若い方々が県内に定着・就職ができるよう、高校生あるいは大学生等が県内の中小企業の魅力に触れるような機会の拡大、こういった所にしっかり取り組んでいきたいと思っている。

委員の皆様方におかれては、事業実施にあたり、考慮すべき事柄や踏まえるべき最近の教育行政の動きなど、幅広い見地から御協議をいただければというふうに考えている。

どうか忌憚のない御意見・御提言を賜るようお願いして、冒頭の御挨拶とさせていただきます。

5 議事概要 (議事進行: 知事)

※委員発言: ● 事務局説明等: ○

(1) 平成28年度の重点的な取組について

○事務局から平成28年度の重点的な取組について、別添資料に沿って説明

● (山縣委員)

私はちょうど2期8年委員を務め、最後に教育委員長もやらせて頂いて。実は8年前にそういう予定を私自身持っていなくて、同時に商工会議所の副会頭だったので、地域のためにしばらくやらんといかんかなと思っていたが、教育に関してはほとんど無関心というか無縁だったので、1期4年で辞めさせてもらおうと思っていた。まったく逆になって、1期3年で商工会議所の方を辞めさせてもらって、この前も会頭が来たので、本当にありがとうございました、辞めさせて頂いてって言ったのは、一体何故変わったかと言うと、41年前山口県へ帰って、ずっと酒屋やっているわけだが、結局、色々やっていることは、すべて今まで受けてきた教育によって全部動かされていたんじゃないかということを感じながら、やはり教育は非常に大事だということで、教育委員に任命させてもらうということで紹介し

てもらい、辞めさせてもらった。その間、色々やってきたが、まず、山口県っていうのは非常に教育県だと思う。防長教育の伝統を守っているという、2年半前も山口県教育振興基本計画でもバックグラウンドがそれになっているわけだが。我々は教育っていうのを守らなきゃいけないわけで、よく高官が言われるが、OECDなんかで、GDP費、日本っていうのは教育費、教育予算が3.5%ぐらいであると。平均で言うと5%ぐらいで、まあ非常に財政の厳しい中で、教育予算に回す公的な予算が少ないのかもしれないが。その中で山口県の場合も他県と同様非常に厳しいと思うが、是非そういう山口県は教育県なので、これからは是非教育予算の確保について十分考えて頂き、今回の重点取組方針ということに関係ないが、山口県っていうのはあくまで教育県だということで、今後もそういうことで善処して頂きたいと思う。小学校の時に教えてもらったわけだが、日本っていうのは資源のない、国土も狭い、結局人材を育てるしかないということで、勤勉で尚且つよく勉強して、それがやっぱり日本の国を支えるわけで。だから、これからは、そういう人材の育成上のことに関しては、非常に力を注いで頂く上で。今回そういう中で、例えば、コミスクは、考えてみたら我々が小さい頃ってみんな、学校教育、家庭教育、地域から学ぶことたくさんあったような気がする。現実、私も、今こう振り返ってみると、もちろん学校教育もあったけれども、家庭で両親から学んだもの、あるいはその地域の色々な人から、学んだことがある。ただそれが、非常に難しくなっている中でコミスクが、当然できてきたわけで、これは昔の良さを取り戻そうという意味でもあると思う。なかなかそれを他県で、じゃあやりたいということができないところが多い中で、山口県は100%コミスクをやろうということで、やはり教育的な土壌があるからできるんだろうと思う。そういう意味で、これからは非常にコミスクっていうのをやって頂きたいし、コミスクもいろいろ現場に行って感じたことは、やはりコーディネーターの方が、きちっとしている所はいいコミスクになっているし、やっぱりそういう人がいないと形だけのものになっている所もある。そういう意味で、今回コーディネーターの方も教育しようという予算も付いているし、非常に良いことだと思う。それから故郷山口を愛着する気持ちを持つということ、これは教育基本法がこの前変わった時に新たに加わったことで、地域の伝統文化を愛して郷土、そして日本の国を愛する気持ちを育てようということで、どこの県もそれは当然やっていることだと思うが、特に山口県の場合は先ほども言ったように、防長教育が非常に充実しており、地域を愛する気持ちはそういった中で生まれてくると思うので。この前も実は、昨年秋に文科大臣表彰を頂いた。皆さんのおかげで。その時に、文科省に行き、1時間だが京大の松本総長が講演、記念講演をされた。その時の内容は、要するに400億年前、人類の起源が始まって人類は進化してきたと。その中で今非常に、進化のパラドックスとでも言うか、逆に例えば温暖化現象、核兵器の問題、あるいは情報化社会のなかでも色々。そういう色々な問題で、今サステイナブルなんて言われているけれどサバイバルの時代じゃないかというぐらい非常に厳しい状況にあると。たくさんそういう事例は挙げられる。じゃあどうしたらいいだろうということは当然我々非常に考える中で、1つだけ、松本総長が仰ったのは、松下村塾の教育を挙げられた。志を持ってそれをやり遂げることだと。私は非常に吉田松陰先生を尊敬しているが、ちょっとびっくりしたんだが、非常に高く評価されて、意外と山口県人ってそういうこと、地元のことっていうのは良く思わないことも多いが、逆に他の人から言われて、あっ、そうかなって評価する

ことがあるわけで、その時本当に、山口県教育振興基本計画の良さを再確認した。これから、総合教育会議で教育大綱っていうのは決められることだと思うが、是非ともこの防長教育の伝統は続けて頂きたいという気が致したところ。それから今回は「平成の松下村塾作り推進事業」なんていうのはまさに、あの私が一番やって欲しいことであって、そういうのを取り上げて頂き、本当に感謝している。それから、先ほども言ったように、意外と地元の人間、山口県の人間っていうのは、地元の良さっていうものをあまり評価しない、というよりも、ある意味では、オープンマインドで、山口県人だから、山口県のものではなくてはという、それはそうだろうと思うが、そのなかで、地域の大学とか、あるいはまあ私は酒屋なので、地酒なんか考えるわけだけど、決して、正直言って地域の人に育ててもらったわけではないという気もしている。どういうことかという、もちろん地元のものを使って酒を作るわけだが、全国的に評価されると山口県人は評価する。そういうところがあり、41年前帰った時山口県も最悪の業界だったわけだが、知事にも来ていただいたように、山口地酒維新とか見て頂いたと思うが、非常に全国で一番注目を浴びている県である。伸び率が8年間ずっと増えている所はもちろんない。これはどうしてそういうふうになったかというところがさっきの話に戻るが、防長教育に関連している。ある若い人が、山口県酒造組合の集まりの時に、何を言うかと思ったら、「至誠にして動かざる者、これあらざるなり」と。私もびっくりした。やはり根底には、最悪の県の日本酒業界、山口県の酒造業界が、いま全国で一番注目を浴びているって言うのはもう間違いなくこの間の受けた教育だろうと思う。そういうことで、別に教育委員会怠っていたというのではなく、これからも、やはり教育に関しては最優先事項ということで、是非是非よろしくお願ひしたいと思う。

●（岡野委員）

今各地域で、全国的に地域創生っていうのが今協議されているが、その地域創生の中で私が一番大切にしなければいけないと思っているのは、先ほど知事が申された、人づくり、それから人材育成、これをやっぱり柱として地域創生を考えないと、これからはやっていけないのではないかとというのが私の頭の中にはいつもある。そうなるとやっぱり教育っていうのがいかに大切かということに繋がってくるが、そういった中で、山口県はおかげさまで来年度、コミュニティ・スクール100%になる。コミュニティ・スクールがこれだけ定着して全国でトップというのは、やはり前にも申したが、県と市町と、それから学校関係者が同じ方向を向いて歩んでいるからこそ、こういったことが達成できたと思うし、今達成しただけで、今から先ほど仰ったように、中身の充実ということが今からの一番大きな課題だと思う。この中身を充実するためにどうしたらいいのかなと、いろいろ考えてみたわけだが、やっぱりモデル校等になって今成功して、成功になったかどうかかわからないが、進んでいる学校、そういった所の現場の生の声っていうのをしっかりもう一度聞いて、そして、されてるコミスクにはメリットもデメリットもあると思う。そういったメリット、デメリットというものをしっかり皆で吸収し、そして、その中から実態把握した上で、どのようにしていったらいいかというのを検討して頂きたい。そして、今山口県のコミスクはおそらく格差がかなりあると思う。進んでいる所、ただ格好だけでできている所とか、だからその格差を縮めるために、やはりもう少しみんなで協議をして、しっかりその格差がなくなるようにアドバイスするのはやはり県の仕事だと思うので、そういったことをして頂きたい。そのためには、

やっぱり推進の核となる人材育成というか、それは今この予算のなかにも出ているが、コンダクターとかコーディネーターだったりとかいう名前で出ているが、こういう方達、教員、コンダクター、コーディネーター、そういう人たちの配置に関わる、やはりお金もかなりかかるかと思うが、そういった財政支援というものはやはりしっかりと組んでいただき、そういった人たちが色々な地域を回られて、色々な学校を回られて、そしてこの県内の格差がなくなるようなコミュニティ・スクールというのを作って頂きたいし、やはり良い事例、悪い事例全てを網羅した上での検討課題というかそういったもので、中身の充実したコミュニティ・スクール、本当の目的であるコミュニティ・スクールを作り上げて頂きたいと思う。それが、山口型地域連携教育にも繋がってくるんじゃないかと思うし、それから、この中に出ているが、郷土を愛するとかキャリア教育とかいろいろ言われているが、これ全てコミュニティ・スクールがきちんとできれば、その中で繋がってみんなここで解決できると思う。なので、やはりコミュニティ・スクールというものを、やはり核とした地域協育ネット、そういったものを作り上げていくような、そのためにはやはり、そのリーダーとなる人材が今なくてはなかなか進めることができないと思うので、そういった人材育成にはしっかり今財政支援をして頂きたい。それからもう1つ、色々なところに出させて頂いて県外の方と話をする時があり、その時に私が誇りに思っていることがもう1つある。それは山口学習プログラムというが、今教育委員会がこれを外部に全国に発信しているわけだが、中国ブロックの協議会に行った時に、この話をしたところ、早速次の日の朝、「ちゃんとアクセスして中身を見ましたよ。なかなか面白いし、だれでもアクセスできるっていうのがとても素晴らしいからうちの県でもやってみたいわ」という委員さんがおられた。こういうふうな1つのことでもいいので、全国に発信できるような、そんな素晴らしいものは誰でもアクセスできて、それ今から少し中身を変えてもっといいものにしようということが、この中にあるので、是非そういったことももっともっと充実して県民だけではなく、県外の方にも発信して、皆さんで、日本全国が皆そういった面で充実した学習ができるように、やはり人材育成をするには、やっぱり子供達にとっては学力向上というものは大きな柱にもなるので、学力向上に繋がるような子どもたちだけでなく、先生も使えて、家庭でも使えるこの学習プログラムっていうのを私は素晴らしいものだと思うので、これも是非進めて頂き、予算の方を是非よろしくお願いしたいと思っている。

●（中田委員）

先日行われた松江市の中国5県の教育委員会の会議に出席して、今日の重点的な取組の特に1番について、議題になっていたと思う。私が出たのは、小学生の問題行動というところ。その領域でも、そして小学生だけじゃなくて、中学生、高校生も含め、本県のこの重点的な取組の中の1番については、これは相当先進的に頑張っているのではないかなと、そういうふうな感じを持った。あの時は結局3つのグループに分けて討論し、そして全体の討論に入った。その全体の討論の中でも、山口県のこの取組に対する質問が、多分5割、6割、5県あるわけなので本来は20%ぐらいということだが、半分以上が山口県の取組についての質問ということで、よその県の方から見ると、なんでそこまでやるのかというような取組がいっぱいあった。まあ問題行動に関して言えば、予防的なこともやっているし、そして問題が発生した時にどういうふうに対処するかという仕組みについて、「そこまでやる必要があり

ますかね」というような、そういう質問がたくさんあった。なのでこの面については、非常にさっきも岡野委員が言われたように、コミュニティ・スクールを中心に非常に進んでいるのではないかと、いい取組をやっておられるのではないかと、そういうふうに思った。

続いて、《2 若者の県内定着・還流の促進》について。これについては、今回の5県の教育委員会の中で、それほど中心的に話し合われたわけではないが、多分そんなに、山口県を取組が先進的だということではないと思う。同じようなレベルで中国5県どころか全国で、特に地方に位置しているような地域では、皆同じような取組で、なんとかして優秀な人を小学校、中学校、高校までに育て、何とか県内の大学に行かせて、しかもなるべく地元で働いてほしいと。よその県にたまたま進学した人も帰って来てほしいというような感じだと思う。これはなかなか上手くいっていないというのが多分現状ではないかと思う。先ほどの説明の中にも、県内の定着率、就職の定着率を大学でも連携して10%増やすんだということでやっけてはいるが、これはもう出たとこ勝負と言う感じ。つまり、そういう教育を少しずつ増やしてやっているつもりではあるが、結局学生が自分の将来のことを考えて、どこで働くのがいいのか、どういう会社に行くのがいいのかという選択を当然する。その中で、やはり優秀な人がそこに出てしまうという傾向が、どこの地方大学でもあると思うが、この流れがなんとか止まらないのかなと。もちろんその、日本全体を代表するような大企業に入って活躍することももちろんいいし、海外に行くこともいいが。自分の生まれ育った地元で自分の力を発揮してもらって、地域に貢献するという考え方、日本にそういう考え方が出だしてまだちょっと短いんじゃないかと思う。私30年ぐらい前にドイツに留学したが、その時にもうドイツの学生達が、これ前も一回言ったと思うが、就職、何が一番いいのかと言うと、地元のでければ市役所とか、そういう所で働けたら一番いいと。やはり育てて頂いたことを何らかの形でお返ししたい、貢献したいという発想がもうその当時に強かった。大企業にという人たちは本当のわずかなもので。最近では日本でも、少しずつそういうふうに地方で地元のために貢献して下さいというようなことは言うが、まだちょっと期間が短いかなと。もっとちょっと継続的にやっていたら、大きな節目があって優秀な人たちがずいぶん残ってくれるようになったなというような時代が来るんじゃないかと思う。もちろん残っておられる方もおられて、特に県庁とか市役所辺りはそういう傾向がだんだんと強まっているとは思。あと少し、大学の限定的なことを申し上げると、今全国の大学で、国公立を含めて、アドミッションオフィス、AO入試と言う入試の制度がある。これはセンター試験入試を条件にしない、それ以外の学力以外のところを大きく評価すると。クラブ活動であるとか学生活動であるとかボランティア活動とか、そういうものを評価する。これをやっているが、山大の中でも、特に理系の学部はAO入試にセンター試験を課したいというように言いだしている。目的から言うと全然違う。結局なぜそういうのが必要になってくるかと言うと。AO入試で入ってきた学生と、一般入試で入ってきた、センター試験を受けて入ってきた学生の学力差がものすごくあり過ぎて、教育が手間暇かかってしょうがないという感じになっている。経済なんかではそれほどとは思っていない。商業高校とか、工業高校とか、実業高校の方も入って頂いているし、AOも入っているし、推薦でも入ってるが、これは普通高校と良い所と悪い所と両方ある。プラスマイナスで言うと、特に劣るといことは実業高校ないと経済なんかは思っているが、理系の学部はやっぱり数学とか、英語とか、そういうところが相当高く

ないと、段階的に上に上がっていかないっていうような性格が多分学問的にあると思う。そういうところで、そういう検討をしたいというようなことも言われている。高校生の教育をそれぞれの領域の先生方が一生懸命やられてはいるが、もうちょっとその大学と高校あるいは中学校との連携をやって、お互いにどういう学生を育てようとしているのか、あるいはどういう教育をこれからするのかというようなことを、近い所、県内の領域では、いくらでも話し合えるので、もう少しそういう機会があって、実質的な議論ができたらいいなと思っている。

●（宮部委員）

先ほど中国地方の5県の教育会議ということで、私も参加させて頂いたが、岡野委員さん、中田委員さんが言われたように、山口の教育に関わっている方、随分頑張っておられるなという印象を受けた。私もまだ2年数か月で経験が浅いが、やっていることが結構深いとこまでやっておられるなというのを印象に受けている。特にコミュニティ・スクールについては、もうどうしてそこまでいったのかというのが、まず1番不思議から始まり、外部の方がどうして学校に入るのかと言っておられる県の方もおられた。せっかく100%ということで、これも話に出ていたが、やっぱり随分格差があると思う。先進した地域と山口県、私岩国で東部だが、ちょっと遅れているなという感じも未だに持っているが、その格差を、この度予算付けていただいたが、コンダクターの数を増やして頂いて、徹底していくということに尽きると思う。これを中心にすれば、色々な問題がほとんど片付くということになるかと思う。それと人口減少を止めるということで、色々な施策の中で随分知事も頑張っていて、予算も付けて頂いている。これについて、前回も話に出ていたと思うが、高校生、地元企業ということで、県内は他県、中国地方の他県とは違って随分大手企業が多いということで、高卒に関しては随分、一部上場会社、おじいちゃん、お父さん、僕という三代に渡って、岩国に工場があるが、随分おられる。そういうことで、やっぱり小さい時から色々な話をしながら、その地場の方で頑張ろうという子どもたちがいるのだろうと思う。例えば、私は地場建設業だが、なかなかそういう商売には、学科は元々少なくて、人もいないという中で、ずっと人不足に悩んでおり、特に最近また、専門教科を出られてもその専門の会社に入らない、通常の会社に入るという流れができています。これについてインターンシップとかいろいろ今までもずいぶんやられているが、やっぱり高校の時だけ現場を見たり、測量の、例えば実習で現場をさせてよと言っても、現場で実際にやっていることと学校で習っていることと格差がありすぎるというか。だからインターンシップといっても、現場見学ぐらいの感じで、大きな現場を見せると夢を与えるとか、トンネルとか大きな橋とか見ると、ああこれなんて世の中の仕組みの中で僕たちができるんだ、と夢を与えることができるが、例えば地場の、市の仕事とか町村の仕事をやっている時に見せた場合に、これで夢が広がるんだろうかということもある。今回も一週間程度あるが、地元中小ではなかなか、一週間抱えて、危ない現場で、プラスになるのか中身の問題もあろうかと思うが、せっかく考えて予算も付けて頂くので、身になるような形を、色々協議させて頂きながらさせて頂きたいと思う。今大学含め、県を中心に就職の問題を真剣に取り組んで頂いている。先日も山口大学の方で地元の数社、それから大手ということで、学生さんと宇部の方でいろいろ説明会させて頂いたが、その時も大手と差を付けないように、みんな条件がA3の紙1枚で会社をPRして下さいというこ

とで、子どもたちとずっと、うちの専務が行って説明したが、やはり子供達が集中するのはゼネコンさんということで、我々地場の会社に質問に来たのはただ1人ということであったように聞いている。なかなかそういうことで、高校・大学でそのインターンシップとか説明じゃなくて、これにもあるが、小学・中学ぐらいから、地元の良さっていうのを植え付けるのも大事だが、やはりキャリア教育もやっぱり小学・中学通じて、いろいろやっておかれた方が子供達の選択肢になるんじゃないかなと思っている。それとキャリア教育で1つ気がついたことがある。学校がインターンシップとあって、各会社にお問い合わせということも含めて、ある学校で、PTAが中心になってOBさん、卒業生の企業とか、知り合いの企業、幅広くプレゼンの機会を与えて頂き、子どもたちと交流するというのもやられている。そういった所に予算が回るのかどうか分からないが、ある学校はPTAが主体で、そのうちの会社にずっと参加させて頂いているが、この方の定着率、子どもたちの目の輝きは直接分かるので、そんなことを含めて広げていかれたらなと思っている。本当、人口減少止めるにはやはり地元の子を地元に残すというのが一番であろうと思う。それから新たな産業でよそからとるとということもあるが、これもお互いが競争の流れになろうと思うので。今回一つ良かったのが、産業教育の設備ということで、地盤の自信のある、特質のある技術を学ばせるような施設が高校にできるということで、本当に喜んでいる。知事さんをはじめ、県の前向きな姿勢本当に有難く思っている。実のある形になる様には是非お願いし、終わりたいと思う。

●（石本委員）

私は少し具体的な所について意見を述べたいと思う。この④の学力の育成について、学力定着状況の確認問題というのをされているが、答えの配布だけに終わるだけでなく、個人の弱点に対しての授業構成とか、その後のプリントの配布など、全体の把握をして個々人に返していくという方法をもう少し掘り下げて、内容を充実させていけば、より伸び幅が大きくなるのではないかなと思っている。また、子どもたちには小中学生の頃からやっぱり夢を持って、大学進学とか就職に向けて、学んでほしいと思っているが、今、小中学校の職場体験を色々させて頂き、うちの地域ではあるかと思うが、これからより多くの職種を体験できるように協力頂ける企業とか町の業者さんを増やしていけたらいいかなと思っている。私の職場は病院だが、そこにも体験の中学生が来られることがあるが、やっぱりキラキラした目で、興味津々で、色々積極的に取り組んで頂けると、これからも頑張っってねとか良いお医者さんとか看護師さんになってねっていう形で応援したくもなるし、また参加した生徒さんの方も積極的に取り組んで協力して頂いた方への感謝の気持ちっていうのを手紙とか言葉とかで表す力とかその辺をもっと育むことで、良い循環に、生徒さんと企業さんの間で循環がもっと出てくるのではないかなと思った。職場体験に限らず、民泊とか自然体験等についても協力して頂ける方を募っていくこと、広く周知していくことが大事だと思っている。そのために今の時代、マスコミさんにも協力頂くことも1つの手かなと思っているが、山口県で力を入れている取組とか情報とかを子供達の活動している様子、地域の方に協力の様子とかを広く地域に発信して頂いて皆さんに知って頂く、私もやりたいという気持ちを伸ばしていくのもいいと思う。TVを見て自分が出ているとやっぱり頑張ると思うし、企業の方もそれなりに頑張っってアピールしようという気持ちも湧いてくるんじゃないかなと思っている。とにかく山口県の皆様全員に教育に興味を持って頂き、その中で子供達が夢を持って伸びて頂けた

ら、いい山口県が今後できてくるのではないかと考えている。

●（浅原教育長）

まず、平成28年度の予算編成に当たり、大変厳しい財政状況の中、山口県の将来を担う子どもたちの教育の充実、それに向けた必要な予算をしっかりと確保して頂き、お礼を申し上げます。最初に山口型地域連携教育について、これはもうコミュニティ・スクールということで、既に各委員さん仰られたが、段々、学校と地域の距離が縮まり、地域や学校に積極的に関わる中で子育てもしよう、そういう雰囲気が出てきたという実感をしている。しかし、先ほどから話があったように、まだ格差が学校において、あるいは地域において取組の差があるというのは事実であり、知事さんに御覧になって頂いた浅江中学校のように充実した取組をしているというところもあるし、まだコミュニティ・スクールとして指定したばかりだというような所もある。今後はその取組の格差を縮めるとそれに向けた、その取組が大変大事であり、そのためには大変ご配慮頂いている、コミスクコンダクター、そういったものの充実であるとか、あるいは学校の窓口を担う教職員の体制作り。具体的に言うと学校の中に地域連携担当教員というようなものを位置づけるというようなことも今後の課題になってくるかなと考えている。それから、家庭教育の支援というものもあるが、各市町における相談支援体制の充実、これを図っていくとともに、今後はやはり健康福祉部と共にやっていくと。健康福祉部と連携を密にしていくと。こういうことも必要であるというふうに考えている。いずれにしても話があったように、山口型地域連携教育というのを全国に向けて情報発信していくと。これも大切だが、その取組の内容を紹介するということだけでなく、山口県というのはいかにこういうふうに教育環境がいいんだと、整っているんだと、子育てしやすいんだということをPRして、それが将来の移住とか定住と、こういったものに繋がっていくんだ、あるいは繋げていかなきゃいけないというような考え方。教育分野から地方創生の流れを作っていくという、そういう意識も必要じゃないかなと考えている。それから、高校生の主体的な県内大学等への進学に向けた取組ということだが、人口減少が進む中、若者の県内定着、あるいは還流を促進していくためには、生徒が自分の進路を決めるその課程において、もちろん先生の話も聞いたり、あるいは資料を調べたりということも必要。それだけでなく、やはり地元の大学生と直接話をすると、そういうふうな交流を通して、県内の大学の魅力とか、あるいは地域の魅力、そういう機会を設けることが大変大切だろうと考えている。今後は大学生と高校生によるディスカッションというようなことも考えているが、そういったことによって県内大学の魅力の周知、あるいは進路に対する意識啓発が進み、生徒の意欲あるいは能力、適性に応じた本当に主体的な、強制じゃなくて主体的な県内大学への進学が進むことを期待している。こうした取組をすることが、もちろん、県外の大学に進学する生徒もいるが、そういった生徒についても、将来やっぱり故郷に帰って頑張ろうとそういうふうなきっかけを作るのではないかと考えている。いずれにしても県教委としても、地方創生の実現に向けて、教育環境の充実により一層取り組んで参るので、是非またお力添え頂きたいというふうに思う。

●（村岡知事）

各委員さんからそれぞれの持ち場で大変貴重なご意見を頂き、感謝申し上げます。また28年度の取組を進めていく上で、大変参考になる御提言を頂いた。私もコミスクという仕組み

自体、知事になって初めて知って、山口県が非常に進んでいるというのを知って、すごいなと思って驚いた。

最初は阿武町に、「どこでもトーク」ということで地域の方と話す機会があって行ったところ、阿武町の方では小学校で保護者全員が参加して日替わりで読み聞かせをするという話もそこで聞いたし、こないだ浅江中学校に行かさせてもらい、本当に子どもたちもすごく活き活きしていたが、地域の方が本当に普通に学校に入って子どもたちとの会話を交わす。そしてまた授業では、その技術の授業でいえば、のこぎりの切り方を地域の人が学校入って、それも一人二人じゃなくていっぱいいて、1つのクラスで4、5人に1人が付くような感じで色々な技能技術をもちろん教えながら、色々な会話をしながら、地域の方と交流しながらやる。子供達も本当に素直な子達ばかりで、実際に私も浅江中学校が進んでいるというのは聞いていたが、実際に行って本当にすごいなとやはり感じた。これは本当に山口県の教育、もうみんながこんな感じになると素晴らしいなというふうに思った。今回100%になるということで、非常に素晴らしいことだと思う。この仕組みは、やっぱり地域の教育力がしっかりと、もともと山口にベースとしてあった部分があるからこういった形で100%にもってこれたんだと、それと色々な方の努力があった上でたどり着けたんだと思うが、是非これを伸ばしていかなきゃいけないと思う。山縣委員さんも言われたが、元々昔のこの地域の持ってた力というのを、昔の良さを取り戻すということだと思う。昔は地域で、みんな一生懸命に協力をしていたということだと思うし、それと少し話はそれるが、今年予算でも子育ての関係で、地域の力をしっかりと引き出していこうと思っており、例えば特にシニアの方に子育てに参加をしていただくということで、子育てのサポーターバンクというものを作って、色々な子育ての関係の施設とか人が足りない所に、地域のこのシニアの方とか登録してもらって、それと施設を繋いでいって、よりきめ細かなサポートをしてもらう。これも地域の方の何か役に立ちたいという思いを、しっかりと繋げていくということにするということもやるようにしたし、また、企業の方も寄付をしてもらって、県と半分ずつお金を出し合って、色々なNPOとか子育て関係団体の活動も支援していこうと。そういったことで、地域とか企業とかをこう巻き込んでやっていくということと。あとは、実は山口県って同居率が非常に低い県で、同居率が全国平均が10%ぐらい、山口県が6%ぐらい。都市部は元々低くて都市部とかも含めた全国平均が10%ぐらいで、普通、地方はもっと高い。山口は非常に低いと。同居率が低いとどんな現象が起きるかということ、子どもの数がもう全然違う。

山口県も少子化の中で同居率が低いということ。同居はなかなか難しい問題があるが、近居とか、近くに住む、同じ学区内に住むとか。これを促すことによって、その親子でと言うか、おじいちゃんおばあちゃんとかも子育てに関わっていける。お願いし易かったり。そうすると、色々な負担も軽減されたり、あるいは女性も働きに出やすかったりとか、色々なことになるというとは思っている。そういう同居とか近居の関係も、今回そういう例えば住宅の改修への補助を出すとか、あるいは民間の住宅関係の業者を中心に、行政との間に関係の協議会を作って、それを民間の方でも進めていこうということをやったりとか。割とやりたいのは色々とその教育もお金がかかるから、保育料の軽減とかもやるが、それだけじゃなくて地域の力とか、企業の手とか、その親子の本来の3世代の関係とか、そういったものを取り戻す、そういう仕組みを作ってより良いその環境、子育てしやすい環境を作っていこうということ

だが、コミュニティ・スクールも全く同じだと思う。元々地域の持っている、教育をしっかりやっていこう、地域で子どもを育てていこうという部分の力をうまく引き出して、学校と地域が一体となってい子を育てると。山口で頑張ろう、地域で頑張ろうという子を増やすということが色々な課題の解決、今日も色々な委員さんが言われたが、色々な課題の解決に繋がっていくというふうにする。なので、それをしっかりと進めていきたいと思うし、先程教育長が言われたが、これが山口県の魅力として、また移住とかに繋がっていけばいいということ。

日曜日に東京で、若手の知事同盟、将来世代応援知事同盟っていうのがあり、12県の知事がそこに入って、とにかく地方、今どこの県も人口が減っていて首都圏に行くんで、地方への移住を進めていこうと、地方の暮らしがいいよっていうのを勧めていこうということをやっている。東京の池袋のサンシャインシティでイベントをやって、パネルディスカッション等いろいろやって、地方の暮らしの良さをアピールして、最後にリレープレゼンテーションと言って各県の知事が順番に出て行って、2、3分ぐらいの時間でそれぞれがこう自分の県の魅力っていうのを、うちの県はいいですよっていうのをやるわけだが、まあそれぞれの県の例えば食べ物がおいしいとか、気候がいいとか、子育ての施策がこんなに充実しているとか、あるいは移住の施策がこんなのあるとか、そういったことを言っていた。私はその時間を全部コミスクの紹介に使わせていただいた。やっぱり子育てする上で、住むと教育環境はとっても大事だと。そういうなかで、山口県ならこういう取組をしているということで、先ほどの阿武の小学校の話とか、浅江中学校の話とかを紹介して。これが山口県は4月に100%になる予定だと。こういったものは首都圏、都会ではできない。地域だからこそこの地域でみんなが協力して子どもを育てるという素晴らしい環境ができると。是非そういった環境の揃った山口県に来て下さいという話をした。そういったこともして、山口のせっかくここまで伸びてきたコミスクをもっともっと、今お話があった100%の、これから充実もしていかなければならないと思う。そういった思いを持って、私も是非皆さんに進めて頂きたいなと思っている。そういうふうに、また山口県の特徴としてこう周囲が評価をしてくれるようになれば、これも山縣委員さんが言われたが、周りがいいと言ってくれば、改めて皆さんが気づくということもあるので、ますます発奮をして、何か自分たちがこんなに出ているんだから頑張らなきゃいけないとなってくると思うので、やっぱりそういう外から、県外とか、岡野委員さんが言われたが、県外に山口の色々ないい取組、他のことも含めて、情報が伝わるとそれでまた改めてそういったふうな見方もされてくる部分もあるし、他の県も参考にももちろんなると思われているが、我々自身がそういうふうに評価されるということによって、ますます頑張っていこうと励みになってくる部分もあると思うので、そういう意味でも色々な情報発信をして、山口県の教育の特徴だということで、他に追随を許さないような教育の特徴だとなればいいなと思っているので、是非また教育委員の皆様も同じ思いだと思うが、取り組んで頂きたいなと思う。またもう1つの定着の促進、企業の就職の方に繋がっていくということで、これも目指すべき方向は皆さん同じだと思う。あとはどうやって実効性を上げていくかということだと思うので、色々なきめ細かな対応、良くある企業の方とも協力してもらいながら、やっていくということをしていかなければいけないと思う。大学の方でも、今度COCプラスということで、県内の定着率を上げていこうということ県

内の大学が連携してやることになっているので、高校生とか、そういった中学生とかも含めて色々な教育の段階で、それぞれ企業の方とも連携をとりながら進めていくことが必要だと思うので、是非またこの県教委の色々な皆様方、今日も貴重なご意見頂いたが、そういったことも踏まえて、さらには我々も出来ることをやっていくし、皆様方の方でも進めて頂けるとありがたいというふうには思う。すみません。1時間という限られた時間で、貴重なご意見をいただいた。また今後に向けても、重点的に進めて行く取組、我々もこれから検討していく上で参考になるご意見も頂いた。次回の会議については、本日頂いたご意見も踏まえながら、重点取組方針の見直しについて議論を頂ければというふうに思っている。

(2) その他

● (村岡知事)

本日の会議全般について、何か皆さん方から特に何か。特にないようであれば最後に。

本日は、本当に28年度の重点的な取組について貴重なご意見を頂き、感謝を申し上げます。冒頭でも言った、大変厳しい中での予算編成ということであるが、今回、教育分野については、この会議でも頂いたご意見も踏まえながら、しっかりと方向に沿って取り組んできたつもりである。是非、効果の高い事業の実施に努めて頂きたいと思っているので、よろしくお願ひしたい。次回は、28年度の事業の実施状況も踏まえながら、今後の取組方針について協議をさせて頂きたいと思っており、9月ごろに、この会議の場を設けたいというふうに考えている。引き続き、皆様方のご協力を頂くようお願いをして、まとめのご挨拶とさせて頂く。

6 閉会 (事務局)